

# 平成27年度JA越前たけふ「水稻重点対策」

越前しきぶ姫のブランド力を高めていくため、「重点技術対策」に取り組み、消費者から信頼される「高品質」で「良食味」な米づくりを実践しましょう。

## 目標

日本晴復活プロジェクト400ha（特裁200ha、慣行200ha）

特別栽培省農薬（無化学肥料・農薬8割減）あきさかり 140ha

特別栽培（化学肥料5割減・農薬5割減など）コシヒカリ 500ha



## 1. 新たなインセンティブ買入制度

- JA 越前たけふでは全国に先んじて水稻の特別栽培化を進めてきましたが、より安全・安心な省農薬（農薬8割減）栽培などを行い、消費地や卸業者に「環境にやさしい米づくり」を更にアピールすることで、越前しきぶ姫のイメージアップを図りながら、少しでも「高く売れる米を作ろう」という生産者の努力が十分に報われるよう、新たな買入制度を実施することで意欲ある生産者を支援してまいります。
- 山間地・平坦地ともに品質がよく、比較的収量や食味が高いあきさかりについて、省農薬の契約栽培を進めます。とくに、集落営農などの大規模経営体においては水稻作付の1割～2割の面積を目途に団地化しながら省農薬栽培を進め、所得の維持向上を目指しましょう。この栽培については、完全有機栽培に近いものの、栽培期間中、本田において初中期一発除草を1回のみ使用できるため、除草や病害虫防除のポイントをしっかりと抑えれば比較的容易に取り組むことができます。

## 2. 日本晴復活プロジェクト

- JA 越前たけふでは米の卸売業者や外食産業への直接販売を行っており、それら実需者からは、寿司米や掛け米として、現在では希少品種となりつつある「日本晴」の引合い要望が多くあることから、4年後の減反廃止を見越して、「日本晴」の生産販売を中長期的に強化する「日本晴復活プロジェクト」を実施し、激化する産地間競争の中で生き残りを目指します。
- 白未熟粒による品質低下が著しい平坦地では、コシヒカリよりも比較的高温登熟に強い品種の日本晴の作付で作期の分散を行いつつ、27年産からは本格的に寿司好適用とした特別栽培での作付を進め、需要に応じた生産で所得の確保と経営の安定を図りましょう。

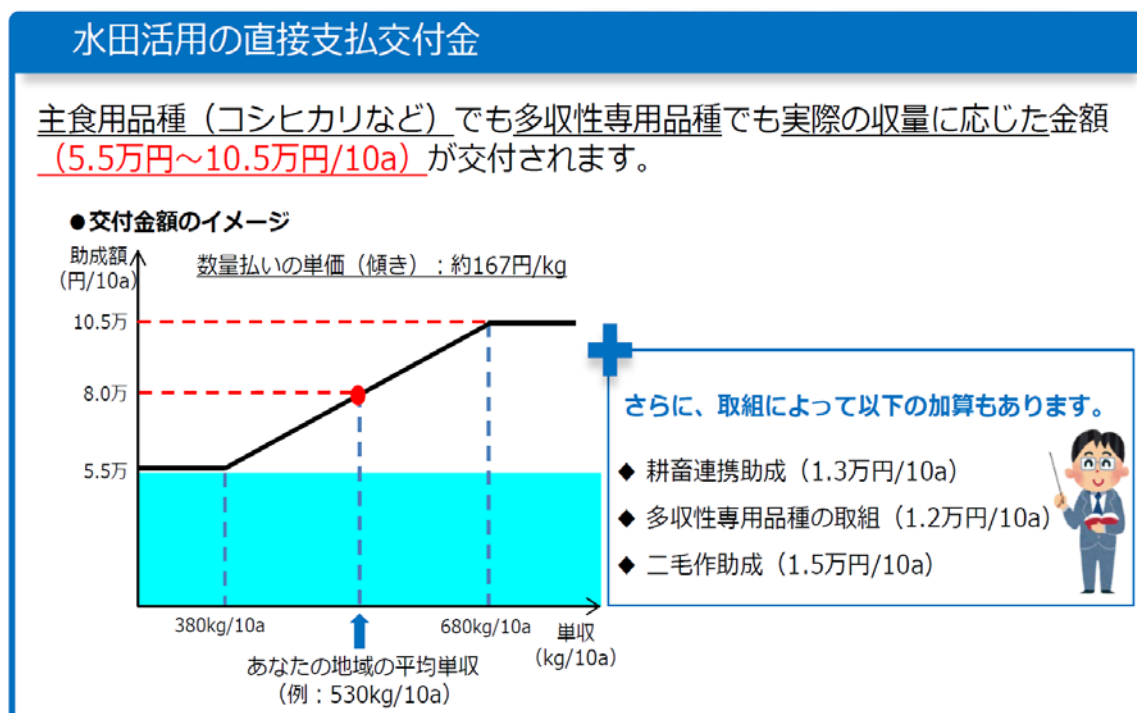
### 日本晴でも加工用米の対応が可能です

日本晴については、主食用の寿司好適用として作付拡大をお願いしていますが、ハナエチゼンやコシヒカリと同様に、加工用としても出荷できるようになりました。既に申し込まれた方で、品種を変更されたい方は、出荷予定数量、種子や苗、肥料の注文もあわせて変更しますので、大変お手数ですが2月27日（金）までにもよりのJA営農指導員にご連絡ください。

### 3. 特選「越前しきぶ姫」の生産に向けて

- JA 越前たけふでは安全・安心ながらに高食味かつ高品質について具体的に表現するため、特別栽培コシヒカリを中心に穀粒判定器や食味分析計による整粒歩合や食味値の測定・紙袋などへの表示を行うとともに、生産者のモチベーション向上のため、分析指数に応じた米の買取制度を平成22年産より実施しており、27年産についても、買取制度とあわせて国の助成措置も継続されることから、取組の拡大をお願いします。

### 4. 飼料用米の取組みについて



JA管内で今年初めて飼料用米に取組まれる皆様へ

### 平成27年産飼料用米の取組条件：越前市飼料活用推進協議会

1. 指定された品種を作付すること ①  
作付する品種は主食用品種のイクヒカリとし、主食用として作付をしないこと。
2. 取組は区分管理（圃場特定）方式で ①  
作付する圃場を特定し、その圃場で収穫されたものを全量出荷する数量払いの取組に限定する。
3. 肥培管理は通常栽培と同じ ①  
飼料用米だからといった放任栽培やあらかじめ獣害が予想される圃場での取組は認められません。（圃場への表示板の設置義務や現地圃場審査を行います。）
4. 協議会での取組に歩調を合わせる ①  
協議会の説明会への不参加、申請書類などの提出期限や様々な取り決めを順守できないなど、協議会、市町やJAの指導に沿わない場合は取組を中止いただくことになります。

**取組まれる方は、もよりのJAへ飼料用米生産要望報告書を提出ください。**  
**提出期限 2月27日（金）**